

ムサ・ファティマ・ショーシャン研究員（モルディブ）

はじめまして。私はモルディブから来ました、ムサ・ファティマ・ショーシャンと申します。モルディブでは、国防省の国家防災センターに所属しています。私が働いている国家防災センターは、防災に関する様々な業務を実施しています。例えば、防災に関する制度設計、温暖化対策、緊急時における仮設住宅の設置、災害で被害を受けた家屋やインフラの復旧対応などを行っています。さらに、災害前の準備段階においては、各種災害に適切に対応するためのプログラムの実施、住民と同様に政府や政府関連機関の防災意識啓発の事業なども対応しています。また、兵庫行動枠組み（HFA）の理念に沿うべく、新たなモルディブ国家開発計画に、政策開発や法律制定などを適応させて、災害リスクの軽減に努めています。国家防災センターにおける私の役割は、災害状況報告の取りまとめや、損害評価の方法論の検討などを実施することです。



今回、客員研究員として機会を頂いたことにつきまして、気候変動、地震、津波、洪水など様々な災害に関するリスク管理の知識や経験を充実させる、素晴らしい機会だと思います。日本は、防災について学ぶことが出来る素晴らしい国だと思います。今回の得られる経験が、モルディブの防災の分野において、きっと貢献できることを信じています。

ADRC に着任している間は、主に、日本の津波早期警戒体制について学びたいと思います。ご存じの通り、モルディブは2004年のスマトラ島沖地震を経験し、大きな被害を受けました。モルディブは1,200の島々から形成され、国土の99%は海洋で占められています。次なる災害に備えるため、本テーマに取り組みたいと思います。

最後に、今回客員研究員としての機会を提供して頂いたADRCならびに、日本政府に感謝を意を表したいと思います。また、このような素晴らしい機会に同意を頂いた、モルディブ政府つきましても、深くお礼を申し上げます。